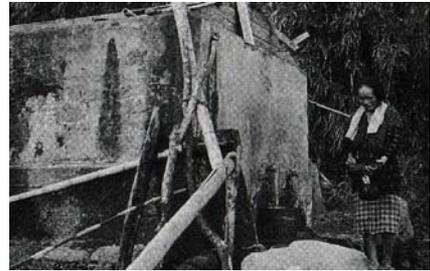


2 暮らしのうつりかわり

(1) 古い道具調べ

今、私たちの身の回りには、たくさんの電化製品せいひんがあります。スイッチを入れるだけでいろいろなことができます。大変べんりな世の中になりました。

毎日使っている水も、はじめのころは、川の水をタンゴに入れて運んでいましたが、やがて井戸をほってつるべでくみ上げるようになりました。今は水道のじゃ口をひねるだけで、水が使えます。雨の日や寒い日でも、家の中で水が使えるので、大変べんりです。



昔の水タンク

ここでは、みんなの家で使っているだんぼう器具のうつりかわりをおじいさんに聞いてみました。

(2) おじいさんの話

やっぱり、いろりがなつかしいなあ。火がよく燃えているときは家の中全部があたたまったものだよ。あたたまるだけではない。いろりの上から下がっているじざいかぎに、なべややかんをつるしてすいじができたし、炭火があれば、魚やもちを焼くこともできたものだ。それに、家族が同じ所に集まることができたのでとっても楽しいことが多かったなあ。

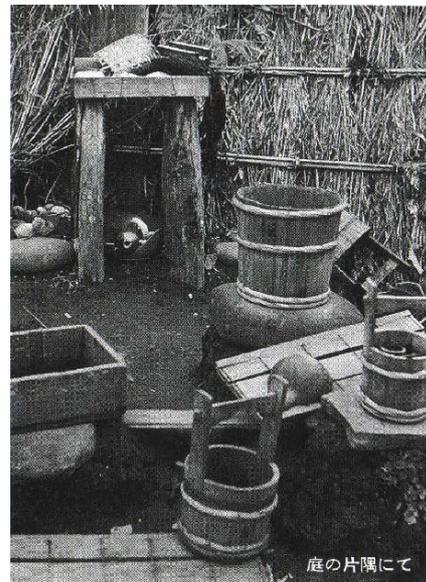
けどなあ、たきぎが燃えないときは、家の中がけむりでいっぱいになって、いろりのそばだけでなく、家のどこにいても、けむたくてけむたくて大変なものだった。

それで、わしが子どものころは、たきぎがよく燃えるようにしておくことが、子どもの仕事の一つだった。大人がわったまきをよく乾くようにしたり、雨が降りそうなときは、かわいたまきを床の下に入れてたりしたものだ。

そういえば、いろりのほかにひばちもあった。特別なお客さんのときだけ使っていたから、お客さんが帰った後、子どもたちは先をあらそってひばちにあたったものだ。でも、手や顔だけがあたたまつて、足は冷たいままだった。ひばちにあたっているのが見つかり「子どもは風の子、外で遊べ」と追い出されていたものだ。ほりごたつもあったが、炭火を使ったこたつだった。ひばちとは反対に、足はあたたまつたが、手や顔は冷たかった。

30年ばかり前に石油ストーブを使い始めた。それまでは、いろりにたきぎをつぎ足したり、炭をつぎ足したりして、大変めんどろだった。石油ストーブは空気のいれかえはしなればならんが、いろりのようにけむたくないし、どの部屋にもかんたんを持ち運びできるから便利だな。でも魚やもちを焼けないのは残念だ。

そのあとにできたのが電気ごたつだ。電気ごたつは座ったままでスイッチを入れたり、温度をちょうせつしたりできるから、ほんとにべんりになったものだ。空気もよごれないし、どこへでも運べるからべんりだが、いろりにくらべるときゅうくつなものだ。



昔の道具

ところで、今わたしの部屋にはルームエアコンが取り付けられている。夏は冷房，冬は暖房だんぼうになる大変いい機械きかいだ。スイッチ一つでいろいろに使い分けられるのだから，本当にべんりになったものだ。

でも，樂をするのはいいが，たくさんのスイッチを使わなければならんし，お金もかかる。いろいろのように，いく通りにも使えないのはざんねんだな。

しらべてみましょう

おじいさんのお話は，これでおしまいです。暖房器具だけでなく，ほかの道具もいろいろ変わってきています。調べてみましょう。